

## お薬の話…2

「酒は百薬の長」と言われ、私たちの食生活や社会生活で飲酒の習慣はなかなか切り離せないものです。そこで今回は、お酒（アルコール）と医薬品（クスリ）の相互作用（飲み合わせ）について、注意が必要なものを幾つか見てみましょう。

薬とアルコールを同時に服用することで、薬の作用とアルコールの作用が合わさって通常よりも作用が強くなります。

(例) 1. アルコール+精神安定剤(ハルシオン、セルシン、デパス、リーゼ等)

アルコール+抗うつ薬(トフラニール、トリプタノール、アナフラニール等)

アルコールと薬物の中枢神経抑制作用が、それぞれ合わさって通常よりも作用が強くなり、時に非常に強くなる場合もあります。

2. アルコール+インスリンや経口血糖降下剤(ダオニール、オイグルコン、グリミクロン等)  
血糖降下作用が増強されて低血糖となり意識が消失(低血糖昏倒)することがあります。

3. アルコール+血圧降下剤

アルコールによる血管拡張作用と薬の作用により血圧降下作用が増強され、立ちくらみがおこりやすくなります。

4. アルコール+解熱鎮痛剤(痛み止め)や風邪薬  
胃炎や潰瘍の発生の可能性が高くなります。



薬物とアルコールを同時に服用することで、薬物やアルコールの作用が、強くなったり弱くなったりします。

(例) 1. 薬物の作用が強くなるもの

ワーファリン(抗血液凝固剤)、ザンタック(胃酸分泌抑制剤)等

2. 薬物の作用が弱くなるもの

テオドール(気管支拡張剤)、アレビアチン、複合アレビアチン(抗てんかん薬)等

また、薬物によっては、アルコールの代謝を阻害するものもあり、頭痛、顔面紅潮、発汗、頻脈、悪心、嘔吐等を生じることがあります。一般に成人では、日本酒1合が体内で分解されるまでに約3~4時間かかるので、その間、薬の服用は避けたほうがよいでしょう。また、他の薬物によっても様々な相互作用が報告されているため詳しくお知りになりたい方は、お気軽に薬局窓口でお尋ね下さい。

### ちょっと注意を!

毎日、何気なく飲んでいるお薬ですが、錠剤やカプセル剤を1錠ずつ覆っている包装シートをそのまま飲み込んでしまう誤飲事故が発生していることをご存じですか? 誤飲されたシートの鋭角部が食道粘膜に突き刺さり食道穿孔を起こし最悪の場合、死亡例も報告されています。誤飲の原因は「うっかり」「ぼんやりしていた」といった不注意によるものです。誤飲したこと自体気付かずに、頬部異物感、嚥下障害、胸痛などの症状でいろいろ検査した末に見つかることすらあります。これを防止するためにも、包装シートはバラバラに切り離したりせず、服用時にシートより取り出して、意識して服用するように心掛けましょう。